

虫・鳥・動物

を見る

リンゴシジミの食樹は
エゾノウミズザクラ



*食樹：チョウの幼虫が食べる決まった木のこと。草の場合は食草

クワガタの集まる木 - ハルニレ・ヤナギ



ハルニレの樹液を吸うミヤマクワガタ



ハルニレの葉。厚めでスジ（葉脈）がはっきりしていて、付け根に段差がある



ハルニレの幹。木の皮（樹皮）は不規則にタテに裂ける



ハルニレの葉の付き方。小枝に左右交互につく（こういう付き方を互生という）



モンズズメバチ。横にはハエも。ハルニレの樹液にはいろいろな虫が集まる

チョウ - 幼虫は決まった葉をえさにする



冬芽→

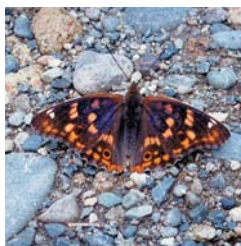
卵

キタアカシジミの成虫
〈撮影：吉原利之〉

〈飼育・撮影：吉原利之〉

カシワの冬芽とキタアカシジミの卵。春、幼虫が食べると、ふくらみ始めた芽の中に入り込む

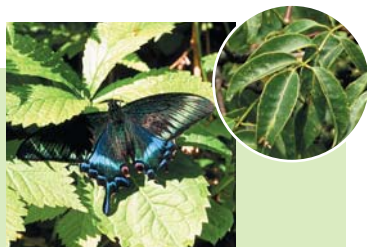
チョウの幼虫は、それぞれエサにする葉っぱの種類が決まっています。草の場合は食草、木の葉の場合は食樹といわれます。いくつか食樹を紹介します。



〈撮影：吉原利之〉



コムラサキ(左)の食樹はオノエナギ(上)、エゾノキヌヤナギ、ドロヤナギなどのヤナギの仲間



ミヤマカラスアゲハ。食樹は北海道ではキハダだけ（円内）



シートテハ。食樹はハルニレ（円内）オヒョウなど



ツバメシジミ。食樹はヤマハギ（円内）食草として多くのマメ科の草

❧ キツツキと木 — 虫食いの木や枯れ木も大切 ❧



アカゲラは十勝では最も一般的なキツツキ



頭の赤マークが大きいオオアカゲラ

虫に食われることは木にとってはマイナスです。枯れてしまえば木の命は終わりです。

しかし多くのキツツキにとって、木の中を食っている虫は重要なエサです。

また木に穴を開けて巣をつくる時には、枯れていたり、生きていてもしんにバイ菌が入っているような木が必要となります。

健康でない木も生き物世界では大切なのです。

また、鳥以外にもエゾモモンガやエゾリスも、樹洞を巣やねぐらにすることがあります。



枯れ木に作られた巣穴から顔をのぞかせるコゲラ



ヒナにエサを運ぶコゲラの親



巣穴から少しだけ顔をのぞかせるエゾリス

❧ リスはクルミの管理人？ 召使い？ ❧



エゾリスとクルミの食べあと（円内）エゾリスは冬眠しないので、秋にクルミを土に埋めて保存しておく



秋に埋められた種から出たオニグルミの実生

エゾリスはシマリスと違い冬眠しないので、秋にクルミやドングリを土の中に埋めておきます。その中で食べられなかったものは春に芽を出します。（→p 9 参照）

エゾリスはクルミにとって、タネを新しいところに埋めてくれるありがたい動物なのです。



エゾアカネズミと食べあと（円内）割らずに穴を開けている

参考文献

「北海道 樹木図鑑」佐藤孝夫 亜細亜社 1990
「北見の蝶」木村辰正 北見市教育委員会 1994
「自然観察シリーズ12 日本のチョウ」海野和男 青山潤三 小学館 1981

「日本動物大百科 第4巻 鳥類Ⅱ」日高敏隆 監修 平凡社 1997
「フィールドガイド 日本の野鳥」高野伸二 日本野鳥の会 1982